

平成 20 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	海底下の大河：地球規模の海洋地殻中の移流と生物地球化学作用
領域代表者名	浦辺 徹郎 （東京大学・大学院理学系研究科・教授）
研究期間	平成 20 年度～ 24 年度
<p>【科学研究費補助金審査部会における所見】</p> <p>本研究領域は、海底下の流体の移流を「海底下の大河」としてとらえ、この大河による海洋地殻内での熱や物質の移流、それにより育まれている地下生物圏、そしてそれらの相互作用を、固体地球科学、地球化学、微生物学、生態学などの視点を連携させて解明しようというもので、単独の分野では為しえない新しい地球生命科学の領域を開拓するものであり、明確な目的に基づいた着眼点の良い計画である。日本発の研究として、我が国が世界をリードできる科学技術的環境が十分備わっている分野であり、速やかに推進する意義は大きい。本研究領域が順調に遂行されれば、地球科学にパラダイムシフトをもたらすに留まらず、地球進化史の考え方も変える可能性のある重要な研究領域であり、高く評価される。航海や備船計画、乗船者の調整等、計画遂行に向けて十分な討議を行っており、また、世界に先駆けて独自の手法による海底下生物圏の直接掘削を実現すべく、深海掘削船を用いた統合国際深海掘削計画の航海も採択されており、本研究領域推進にあたっての準備も整っている。計画研究代表者に若手研究者を配置するなど、人材育成効果も十分に考慮されており、多くのプロジェクト実績のある領域代表者のもと、領域全体の有機的な連携と推進が期待される。</p>	